

議 事 録

会議の名称	第1回三田市総合計画審議会
開催の日時	令和3年4月26日(月) 18時30分～19時40分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階302会議室(オンライン会議併用)
出席した委員の氏名	中瀬会長、角野副会長、赤澤委員、馬場(美智子)委員、中村委員、田邊委員、足立委員、清水(陽子)委員、和田委員、古田委員、長谷川委員、清水(浩一)委員、大東委員、寿賀委員、奈良委員、下中委員、里中委員、的場委員、馬場(路子)委員、小谷委員、吉田委員、福田委員、小林委員、岡田委員、岸本委員、合田委員、大坂委員、川邊委員、佐藤委員、高崎委員、小川委員、坂場委員、武田委員、藤田委員
欠席した委員の氏名	松原委員
出席した庶務職員の職及び氏名	森市長、田中市長公室長、太田政策課長、山谷総合計画策定担当課長、靱井政策課係長、森谷政策課主任、志水政策課事務職員、山田政策課事務職員
その他出席者	なし
傍聴者の人数	3名
議 題	1 会長・副会長の選任及び部会長・副部会長の選任 2 議題 (1) 会議の取り扱いについて (2) 総合計画審議会の概要と進め方等について (3) 基本構想(1)について
会議の概要(結論)	<ul style="list-style-type: none"> ・会長・副会長及び今後設置する部会の部会長・副部会長を選任した。 ・会議の取り扱いについて確認した。 ・総合計画の概要と進め方について確認した。 ・基本構想(1)について、事務局から説明、意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	<p>次第</p> <p>資料1 総合計画審議会における会議録の取り扱いについて</p> <p>資料2 総合計画審議会の概要と進め方等について</p> <p>資料3 三田市総合計画審議会規則</p> <p>資料4 基本構想(1)</p> <p>資料5 市民等意識調査結果報告書</p> <p>資料6 市民WSニュース(概要版)</p> <p>資料7 三田市の現況</p> <p>資料8 第4次総合計画の総括について</p> <p>審議会委員名簿</p> <p>諮問書(写し)</p> <p>三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p>

	三田市人口ビジョン 第4次三田市総合計画書（前期・後期）
連絡先	市長公室政策課 電話（079）559 - 5038 内線（2211）

1 開会

＜田中市長公室長の司会により開会、配布資料の確認等＞

2 市長挨拶

本日は多忙な中、ご出席いただき、また、総合計画審議会の委員の就任をお引き受けいただき厚くお礼申し上げます。本日の会議は、新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン併用として開催させていただいた。総合計画の策定にむけ、全体で35名の委員からご意見をいただきたい。

三田市は昭和33年に3万3千人のまちとしてはじまり63年の歴史を築き、現在11万人のまちに成長した。全国的な課題でもあるが、本市においても人口減少が大きな課題となっている。その意味で、三田市の今後の10年後のまちづくりとして、当面は人口減少の波に負けないまちづくりを進める必要がある。特に若い人が三田で育ったあと、進学や就職で首都圏等へ転出しているが、いかに三田に住み続けていただくか、また戻ってきてもらうかが大きな課題と考えており、その対策により人口減少を少しでも緩やかにしたいと考えている。

また、人口減少があっても暮らしやすい、住み続けたいまちをつくりたいと考えている。デジタルを活用しながら、スマートシティの取り組みとして、自動運転の導入やリモートワークの推進等を行うが、そうした取り組みを進める中でも、いかにぬくもりがあるまちをつくっていけるかが課題である。

アンケートの結果等、様々な資料を参考にしながら議論を進めていただくが、委員一人ひとりの率直な意見や市民の感覚を伝えていただくことを期待している。会長を中心に基本構想や基本計画に対するご意見をまとめていただき、それをもとに市は責任をもって原案を作成し、議会へ提案していく。10年後に、次の世代から感謝されるようなまちづくり計画をつくることができると考えている。

3 委員紹介

＜事務局から就任された委員を紹介と会議の成立を確認＞

4 会長・副会長の選任

＜以下のとおり会長・副会長及び今後設置する部会の部会長・副部会長を選任した＞

会長 中瀬 勲委員、副会長 角野幸博委員

第1部会 部会長 赤澤宏樹委員、副部会長 馬場美智子委員

第2部会 部会長 田邊哲雄委員、副部会長 足立泰美委員

第3部会 部会長 清水陽子委員、副部会長 和田聡子委員

5 諮問事項について

＜諮問事項を確認＞

6 議事

(1) 会議録の取り扱いについて

＜資料1のとおり確認した＞

(2) 総合計画審議会の概要と進め方等について

＜資料2のとおり確認した＞

(3) 基本構想（1）について

＜事務局から資料4に基づき説明＞

委員：市外の企業に勤めているが農村部の高平地区に住み、リモートで勤務をしている。資料4の13ページ、アンケート結果の転出・転居したい理由で「生まれ育ったところではなく、愛着がない」が16.4%となっており、三田のウィークポイントではないかと思う。この点を改善していくことで、定着につながるのではないか。

資料4の11ページ、「10年後の三田市で大切にしたい言葉」で、「持続性」というワードが出ていない。三田市の魅力として、「自然が豊か」が挙げられているが、その魅力をどう持続させていくかという点がポイントではないか。

三田の居住環境や条件を良くすることで、三田を好きになってもらえるのではなく、三田が好きだからある程度の悪条件もクリアできるのではないか。

資料4の3ページに、農業振興の重要度が低いと分類されているがその理由は？

事務局：アンケートで、30施策の中で重要度を5段階評価でお聞きし、その平均を算出した結果である。

委員：資料4の11ページ、「10年後の三田市で大切にしたい言葉」で、上位5つで挙げられている言葉は、市民が受け身になっているような言葉に感じられる。自分たちでいかによくしていくかという言葉が上位になるようにすることが大事だと思う。

同資料13ページ、アンケート結果の転出・転居したい理由で、年齢別集計は行っているのか。若い人たちの意向を知りたい。

同資料22ページで、「三田圏」と書かれているがどのような意味か。

会長：「三田圏」は、三田市だけでなく、三田市周辺自治体も含めたという意味である。

事務局：資料5の51ページ、居住意向について年代別の回答結果を掲載している。10代では、27.8%、20代では、45%となっており、ご確認頂きたい。

委員：資料8の評価方法だが、数値で評価を把握できるようにすべきでないか。

20年前に三田に移り住んだが、自然が豊かであるところに魅力を感じ三田を選んだ。里山を維持するには、資源を活用する必要がある。さらに、地域内経済循環を進め、地域間で絆を深めていくことが大事ではないか。

委員：これまで話に出た農業や持続性に関連するが、新しく農業を始める人にとって三田市は、まちとも近く生活環境が整っているので、そこが強みである。ただ、認定農家になるには農地面積が3反以上となっており、大規模農業が対象となっている。小規模でオーガニック野菜を育てるといった農家にも目を向けることが大事ではないか。里山を守っていくうえでも、若い農家や小さな農家にも頑張ってもらえる環境を用意することが大事ではないか。

委員：資料4の20ページに自動運転等新たな移動手段について触れられているが、自動運転レベル2の車が販売されたが、どのようなレベルの自動運転の導入を検討しているのか。

事務局：昨年度、交通まちづくり課が中型バスで自動運転の運行実験を行う等取り組みを進めている。

所管部署に確認する。

(回答) まちの再生部

自動運転レベルは、法制や通信状況、走行環境インフラの状況により活用できる技術やレベルが異なりますが、国のロードマップからもレベル4による自動運転技術を活用した移動サービスの実現を目指していきたいと考えています。

委員：資料4の5ページ「カ 地縁団体による地域での共助の取り組みやNPO等によるまちづくり活動が進んでいます。」において、担い手不足が課題、新たな協働のしくみづくりが必要だと書いてあるが、平成27年に策定した三田市協働のまちづくり基本指針にも同じような内容が書かれている。指針に基づいた政策を行なっているのに、まだ課題になっているということか。どのように活かされているか。

まちづくり協議会ができて8年経つが、苦勞している地域がまだ多くある。市として、頑張っ て支援してきたが課題があるということか、今後さらに課題解決に向けた支援を行うということなのか。

事務局：所管部署に確認する。

(回答) 地域創生部

①協働のまちづくり基本指針等に関する質問について

第4次総合計画（後期計画）のもとでは、協働のまちづくり基本指針を踏まえて地域担当職員を中心としたまちづくり協議会の設立や地域計画づくりの支援、協働のまちづくり推進委員会や地域コミュニティ懇話会の設置、協働事業提案制度の仕組みづくり等に取り組んでまいりました。

一方でこの間、人口減少にもまけないまちづくりや、多様性を尊重した活力ある地域づくりが喫緊の課題としてクローズアップされてきました。そこで4次総計の取り組みを継承しながら、「多様性と調和に基づく地域住民自治」の実現を目標に、持続可能性を重視した地域づくりの支援や、主体的に課題解決に取り組もうとするテーマ型活動の支援制度の再構築と各セクター間の連携の仕組みの一層の強化が更なる課題であると考え、今回の課題提起としたものです。

②まちづくり協議会への支援について

協働のネットワークを通じた地域力の向上を目指して小学校区を単位に設立を支援してきたまちづくり協議会は、現在全20校区の内18校区において設立されています。しかしまちづくり協議会のあり方については、地域の自主性に委ねた部分があり、その活動内容や自治区・自治会（連合会）との関係は、校区ごとに特徴があり、地域での定着度についても一様ではありません。

市といたしましては、目標とする「多様性と調和に基づく地域住民自治」を推進する上で、地域づくりにおける協働の連携基盤（プラットフォーム）としてのまちづくり協議会の機能は必要不可欠であると考えます。したがって今後とも、地域の皆様のご意見を伺いながら、校区ごとの地域特性を踏まえたプラットフォーム機能の推進の支援や、その裏付けとなる制度や仕組みづくりを通じた環境整備等に努めてまいります。

委員：自然豊かというキーワードが出ていたが、自然豊かの正体は何なのか。これまで誰が守っ

てきて、今後どう守るのかについて、議論を深めていきたい。

会長：地域循環共生圏構想が国で議論されているが、そちらについても確認いただきたい。

委員：農家の担い手不足に危機感を持っている。10年後、誰が支えていくのか、災害時には、グローバル経済は役に立たないと実感した経験がある。そのような事態の時に地域で食料を供給できる環境が必要である。

副会長：オンライン開催とのこともあり、委員の皆さんが満足のいくディスカッションができていないのではないかと。部会でしっかり議論をしていきたい。

資料4の3ページにアンケート結果から満足度と重要度を分布した図がある。重要度が低くて満足度が低い第3象限、重要度が高くて満足度が低い第2象限をしっかりと意識する必要がある。総合計画の観点から見ると、第3象限を無視してはいけない。この部分について、市民目線からしっかりと議論が必要である。

資料4の7ページで、人口について記載されているが、避けて通れない課題になる。ニュータウンでは急激に人口が増えたことを受けて、今後急激に高齢化が進む。三田市なりの都心居住が今後どうなるか。また、中山間地域について、委員の話聞いていて、若い人や新たなライフスタイルを提案できるような人や、中山間地域に入っていけるような仕組みをつくってほしい。

高齢化問題や人口問題について、市全体で見ると大事だが、地域別、モザイク的にみてほしい。その中で、家族のタイプが変わってきている。夫婦2人と子ども2人で暮らし、夫が都心で働くといった家族が多数派ではなくなってきている。そういった変化についてどう対応していくか真剣に議論したい。

会長：今後、部会に分かれて議論を進めるが、部会で各テーマについて議論を行いながら横断的な議論を進めていく。

7 閉会

- ・次回は、5月25日（火）に19時から開催する。
- ・次回の内容は、まちづくりの基本目標や人口推計等について議論する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、本日同様、オンライン会議変更が生ずる恐れがあるが、その際には改めて各委員へお知らせする。

（以上）